

Web展関連講座 顔真卿の書に学ぶ

【観峰館オンライン講座】第27回

根來 孝明（観峰館 嘱託研究員） 2022/3/22



はじめに

講座の内容

1. 顔真卿の人物像と作品について
2. 楷書作品について―若書きと晩年作の比較―
3. 行書作品について―王羲之との比較―



1. 顔真卿の人物像と作品について



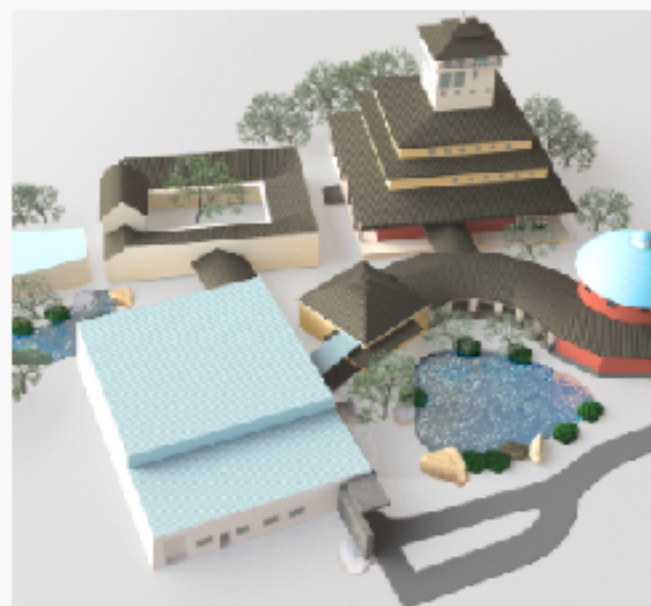
Web展覧会

顔真卿の法帖

2022年3月1日 - 2022年4月15日

お知らせ

資料調査・整理のため休館しております。



バーチャル観峰館



Web展覧会（書）



Web展覧会（絵画）



イベント・講座



常設展示

< 2022年 3月 >						
日	月	火	水	木	金	土
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19

顔真卿

(709～785)

- ・ 唐時代（618～907）の玄宗皇帝（685～762）に仕えた政治家。
- ・ 安史の乱（755～763）で反乱軍をおさえて大功を挙げた。
- ・ 政治家として紆余曲折を経て、最後は反乱を起こした李希烈（？～786）を説得するために派遣され、そこで捕まり殺されてしまう。国家に仕える忠義心の厚い人物として、中国史に名を残す。
- ・ 安史の乱で義勇軍を率いて奮戦したことから武人のイメージが強い人物だが、もともと文官（軍事以外の行政事務を取り扱う官吏）であった。
- ・ 学者／能書家を輩出した名家の出身でもある。

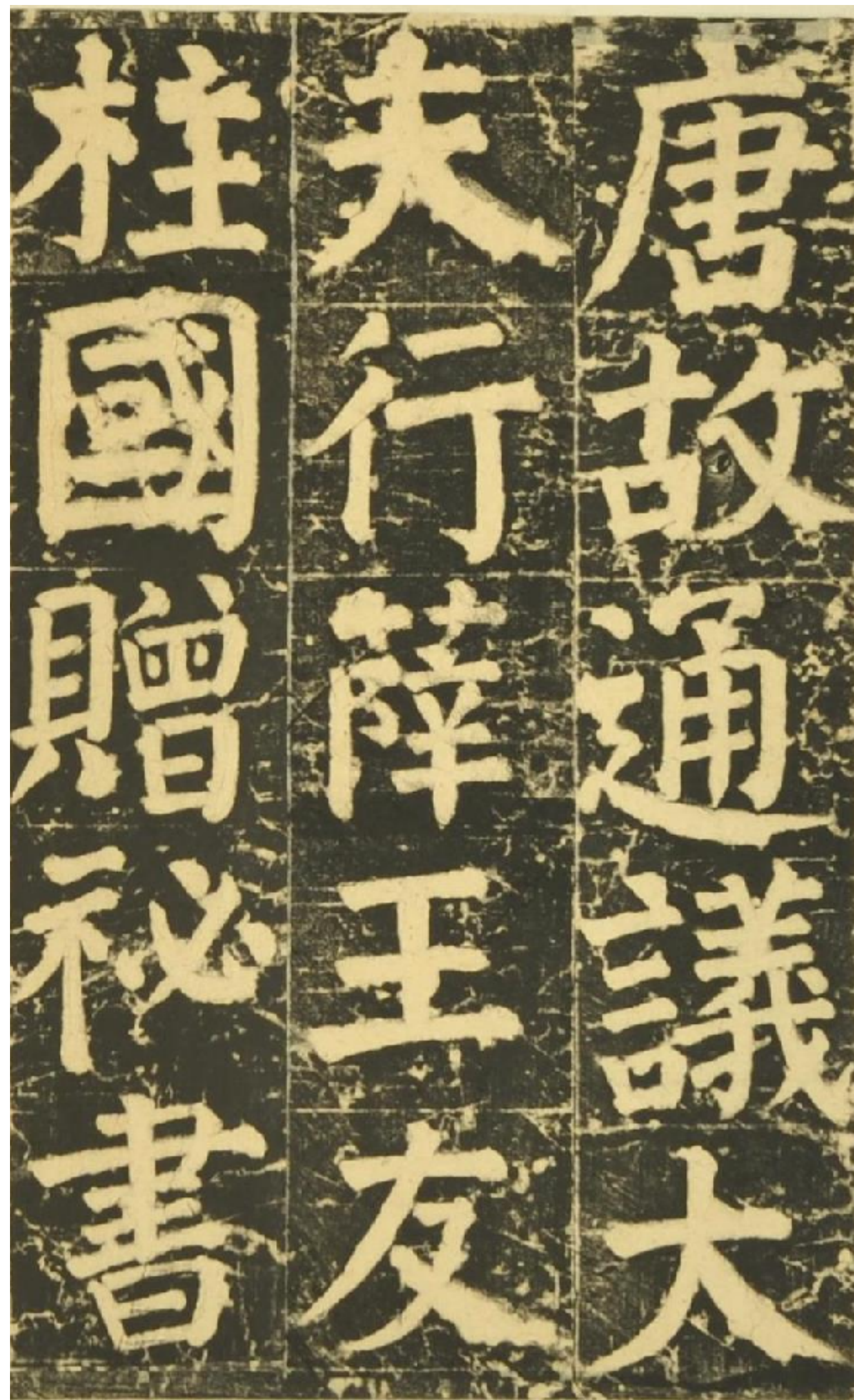


王西京《顔魯公像》紙本墨画
137.9×68.0cm 1987年 観峰館蔵

顔真卿の主な作品

☆印は観峰館Web展覧会で公開中

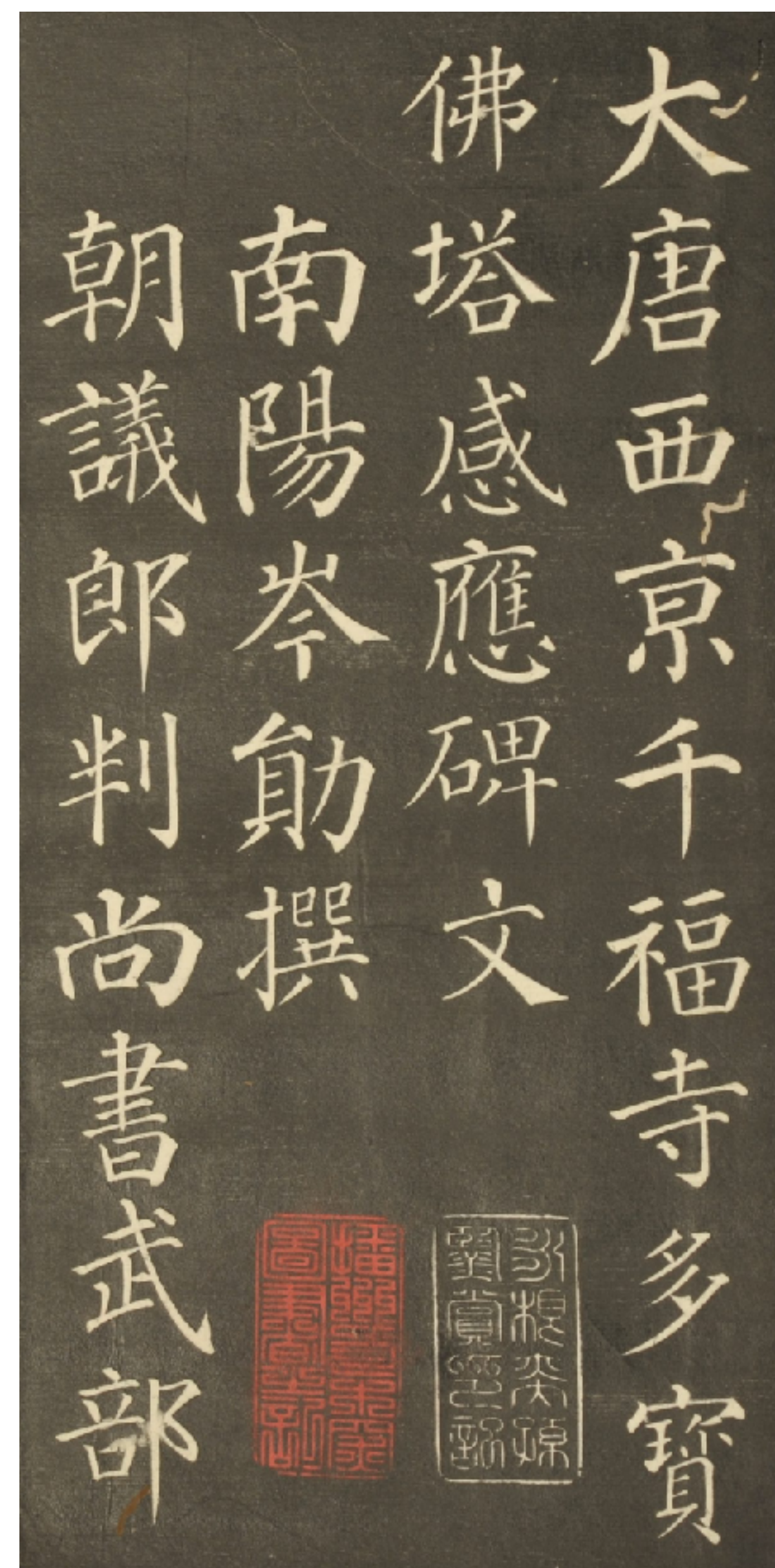
1. 「王琳墓誌」 天宝元年（742）
2. 「郭虚己墓誌銘」 天宝8年（749）
3. 「多宝塔碑」 天宝11年（752） ☆
4. 「東方朔画賛碑」 天宝13年（754） ☆
5. 「顔魯公三表真蹟」 至徳2年（757） ☆
6. 「謁金天王神祠題記」 乾元元年（758）
7. 「祭姪文稿」 乾元元年（758）
8. 「祭伯文稿」 乾元元年（758）
9. 「鮮于氏離堆記」 宝応元年（762）
10. 「争坐位文稿」 広徳2年（764） ☆
11. 「臧懷恪碑」 広徳元年（763） ☆
12. 「郭氏家廟碑」 広徳2年（764） ☆
13. 「逍遙楼三大字」 大暦5年（770）
14. 「大唐中興頌」 大暦6年（771）
15. 「麻姑仙壇記」 大暦6年（771） ☆
16. 「八閔齋会報徳記」 大暦7年（772） ☆
17. 「宋璟碑」 大暦7年（772） ☆
18. 「与蔡明遠帖」 大暦7年（772） 頃
19. 「送劉太冲序」 大暦7年（772） 頃 ☆
20. 「元結碑」 大暦7年（772） ☆
21. 「干禄字書」 大暦9年（774） ☆
22. 「顔勤礼碑」 大暦14年（779） ☆
23. 「馬璘新廟碑」 大暦14年（779）
24. 「顔氏家廟碑」 建中元年（780） ☆
25. 「自書告身帖」 建中元年（780）
26. 「裴將軍詩」 制作年不詳



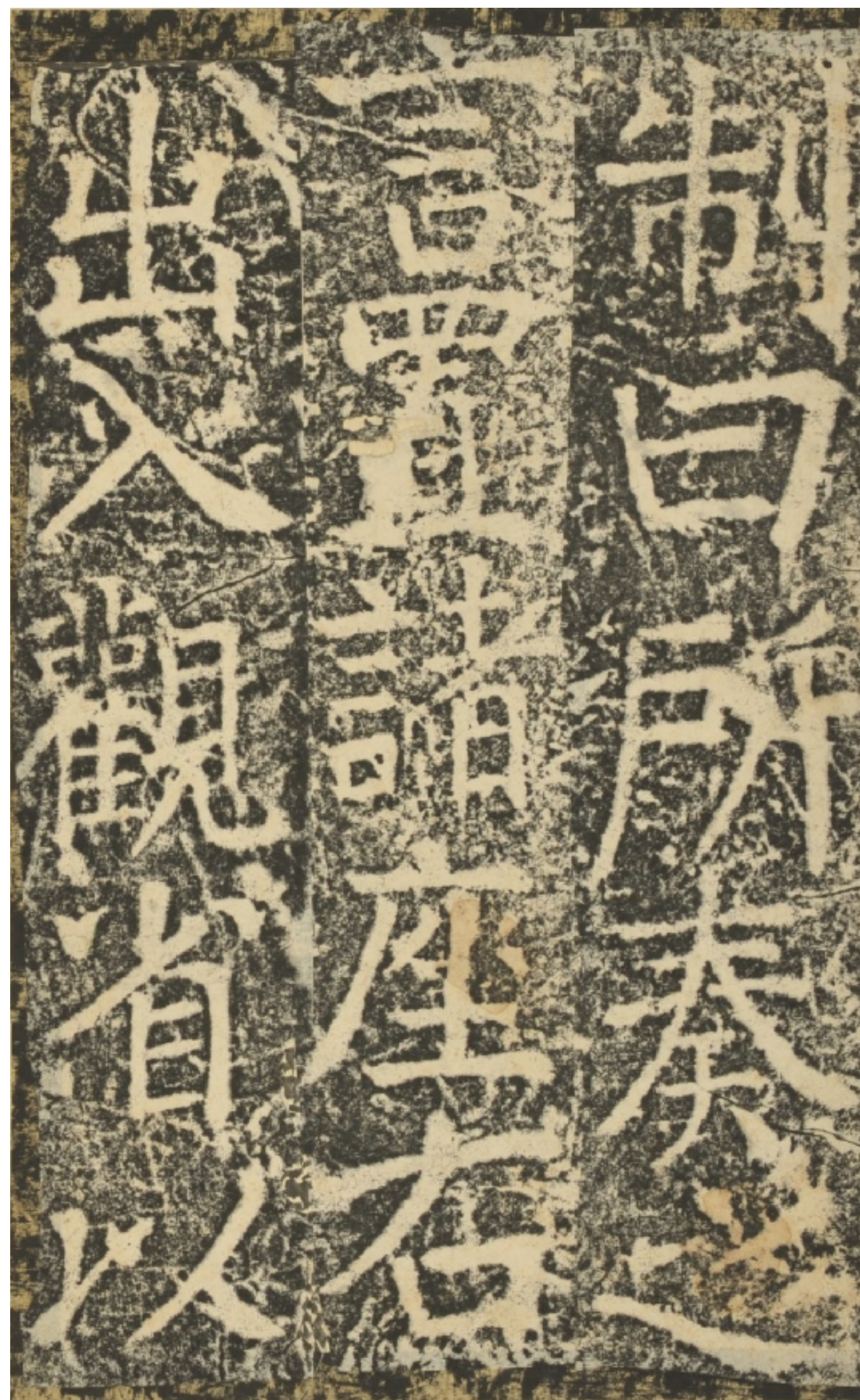
顏真卿《顏氏家廟碑》建中元年（780）



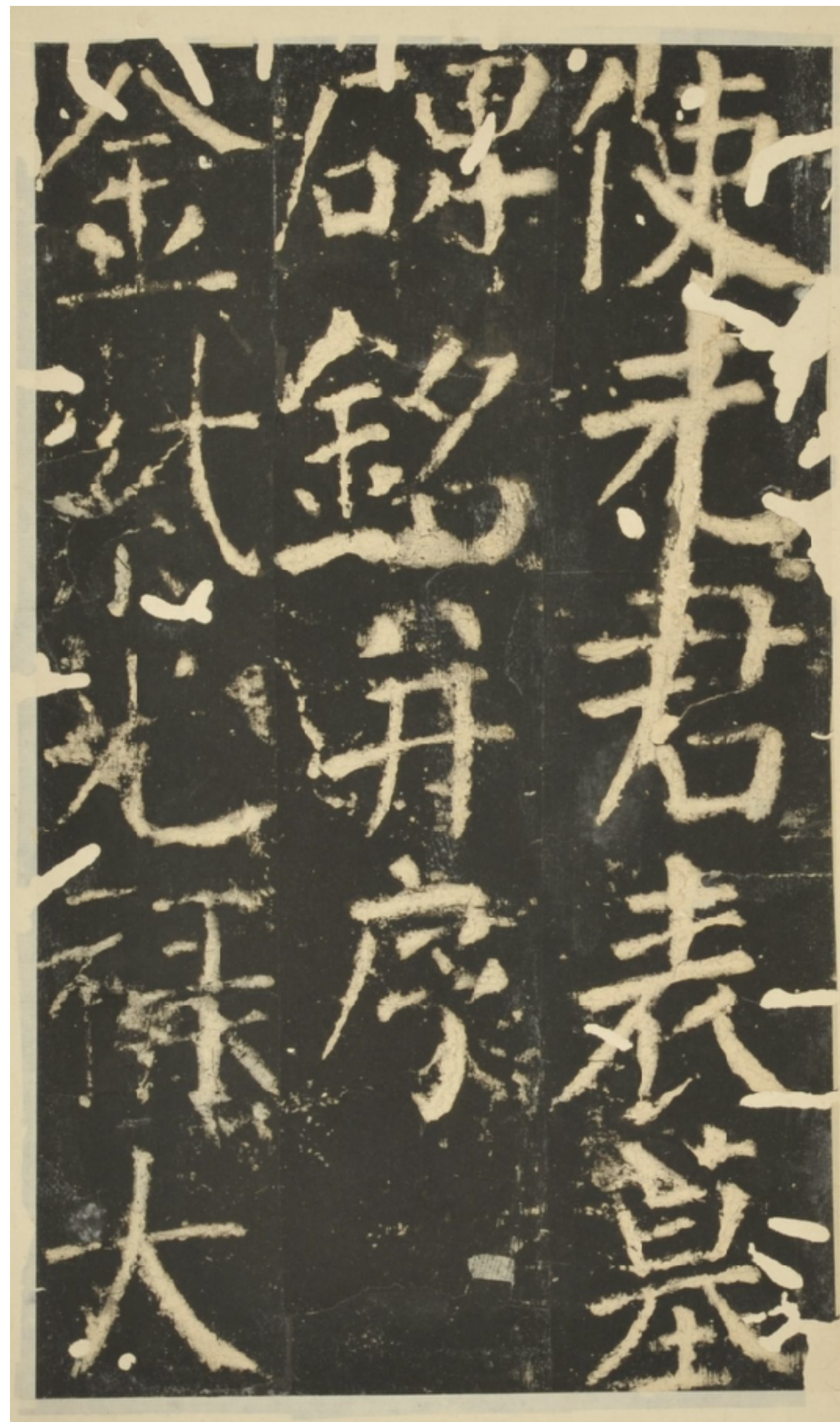
顏真卿《爭坐位文稿》廣德2年（764）



顏真卿《多寶塔碑》和刻本
原本：唐時代 天寶11年（752）



顏真卿《宋璟碑》大曆7年（772）



顏真卿《元結碑》大曆7年（772）



顏真卿《藏懷恪碑》廣德元年（763）

中国書法史における顔真卿

- ・ 楷書の石碑／行書の草稿など、力強い書を多く残している書家。
- ・ 書聖・王羲之（303?～361?）の書風とは異なる、独特の書風を確立した人物。



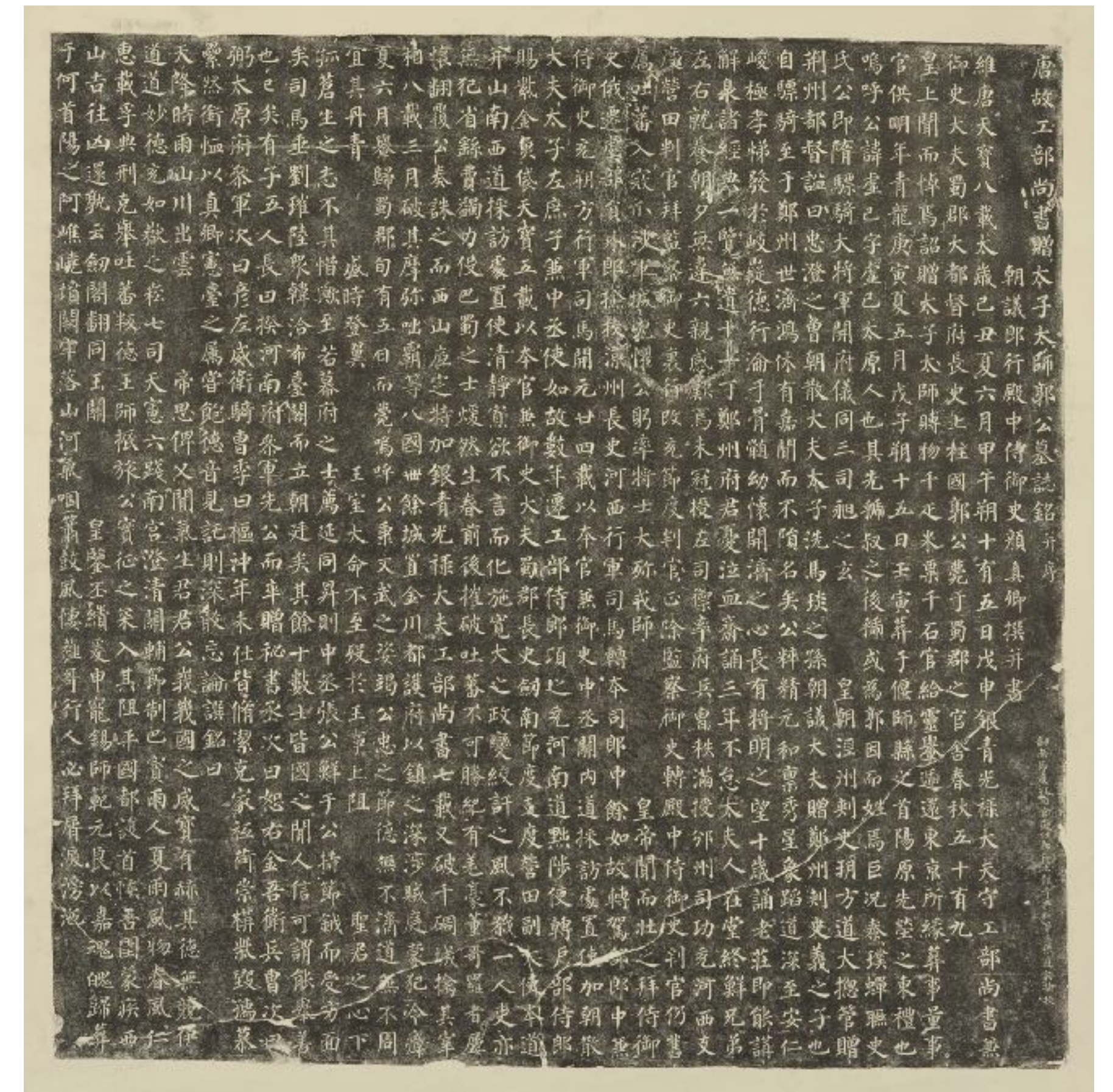
王羲之《蘭亭序》定武本 觀峰館

2. 楷書作品について — 若書きと晩年作の比較 —

早期の楷書作品

《郭虚己墓誌銘》 唐時代 天宝8年（749）刻

- ・「郭虚己墓誌銘」は、唐時代の官僚であった郭虚己（691～749）の姓名・経歴・没年などを記したもの。
- ・顔真卿（709～785）41歳の書で、1997年に中国河南省の偃師（えんし）市で発見された。
- ・現存する顔真卿の作品では、天宝元年（742）の「王琳墓誌」に次ぐ若書きの作品。
- ・長く土中にあったため碑面の損傷が少なく、文字が見やすい状態のまま現在に伝わる。



顔真卿《郭虚己墓誌銘》紙本墨拓 106.3×105.4cm

唐時代 天宝8年（749）刻 観峰館蔵

72歲

唐故通議大夫行薛王友柱國贈秘書

顏真卿《顏氏家廟碑》建中元年（780）

44歲

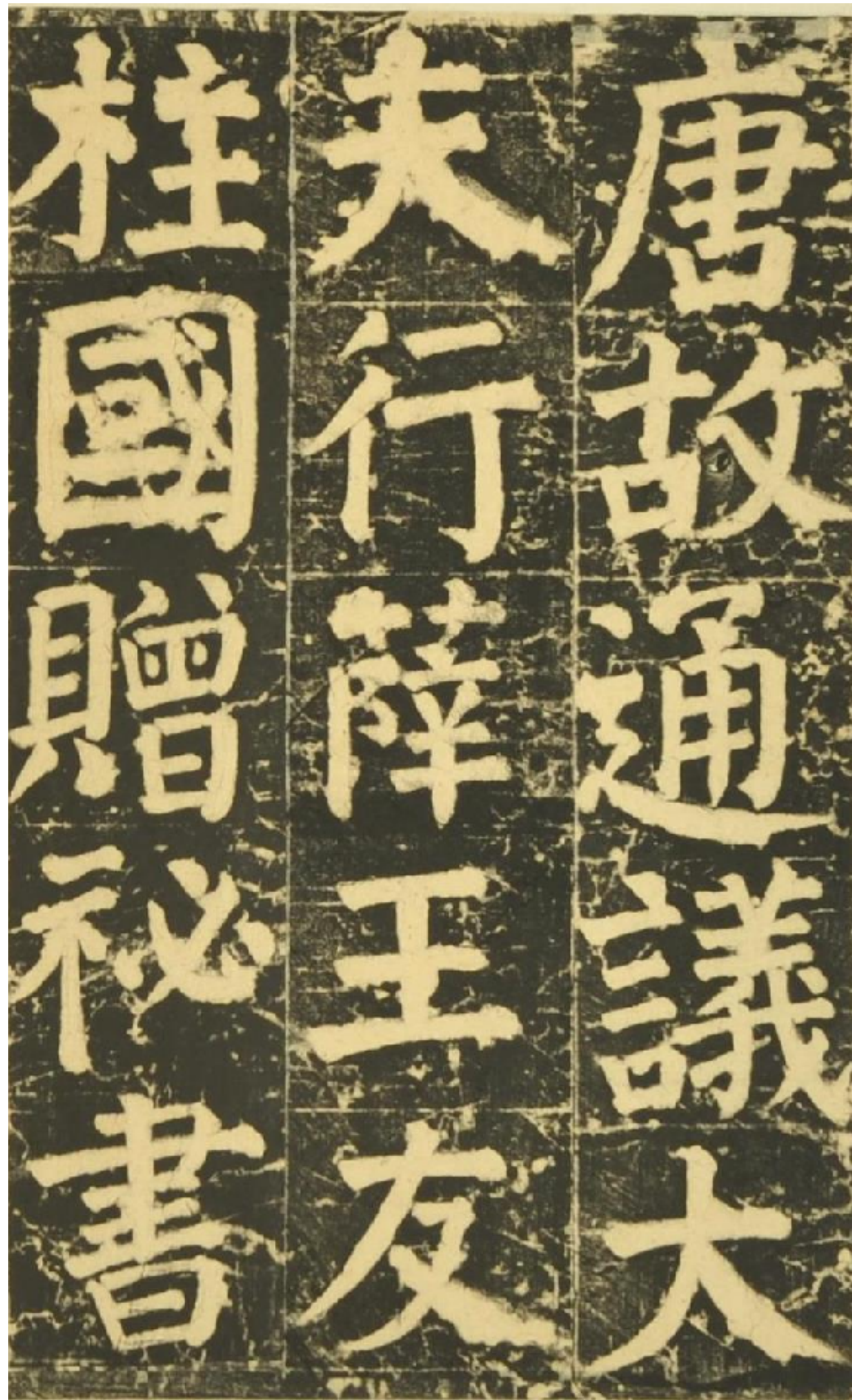
維唐天寶八
御史大夫蜀
皇上聞而悼

顏真卿《郭虛己墓誌銘》天寶8年（749）

帝制三藏聖
蓋聞二儀有
覆載以含生

褚遂良《雁塔聖教序》永徽4年（653）

72歲



顏真卿《顏氏家廟碑》建中元年（780）

44歲

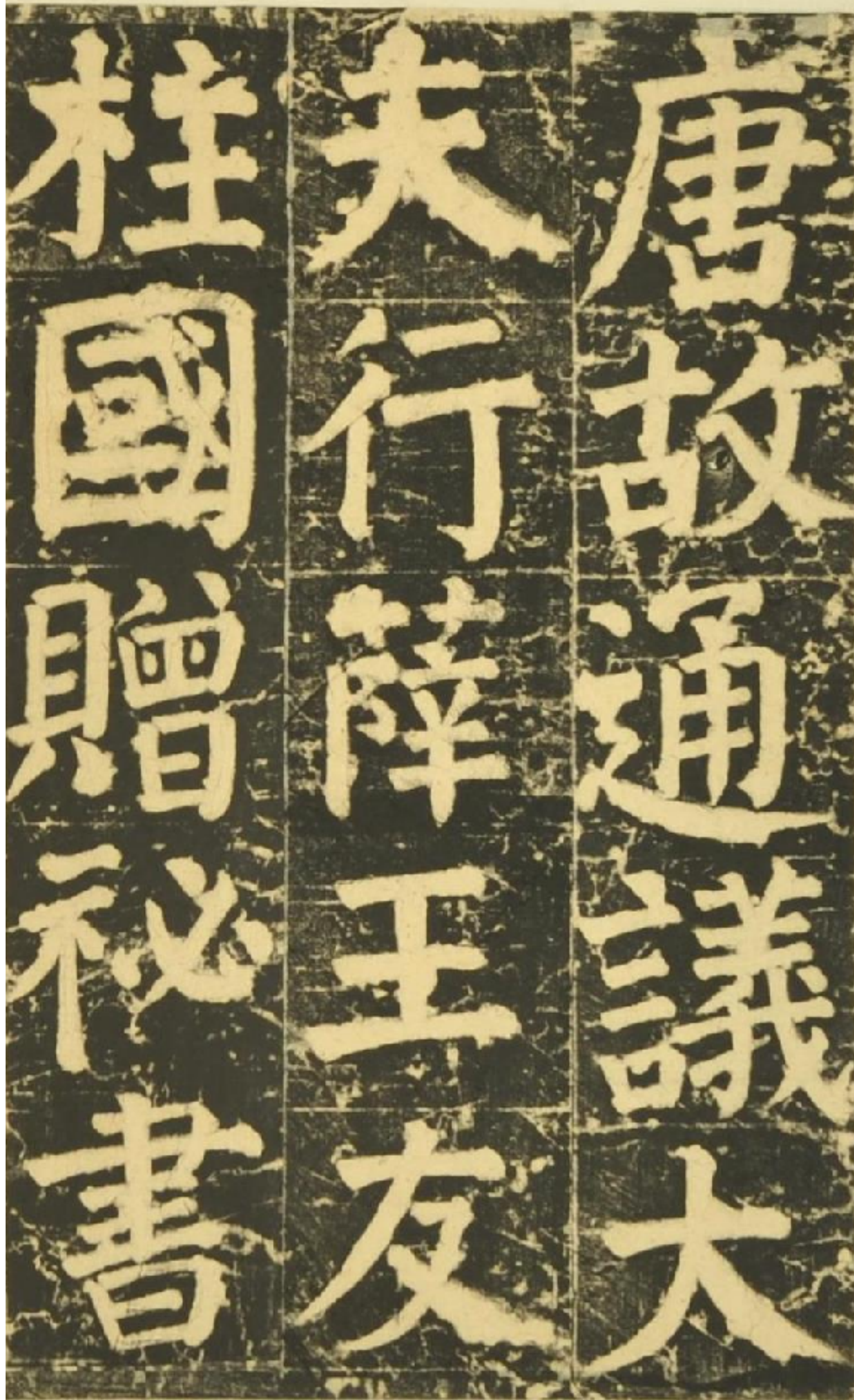


顏真卿《郭虛己墓誌銘》天寶8年（749）



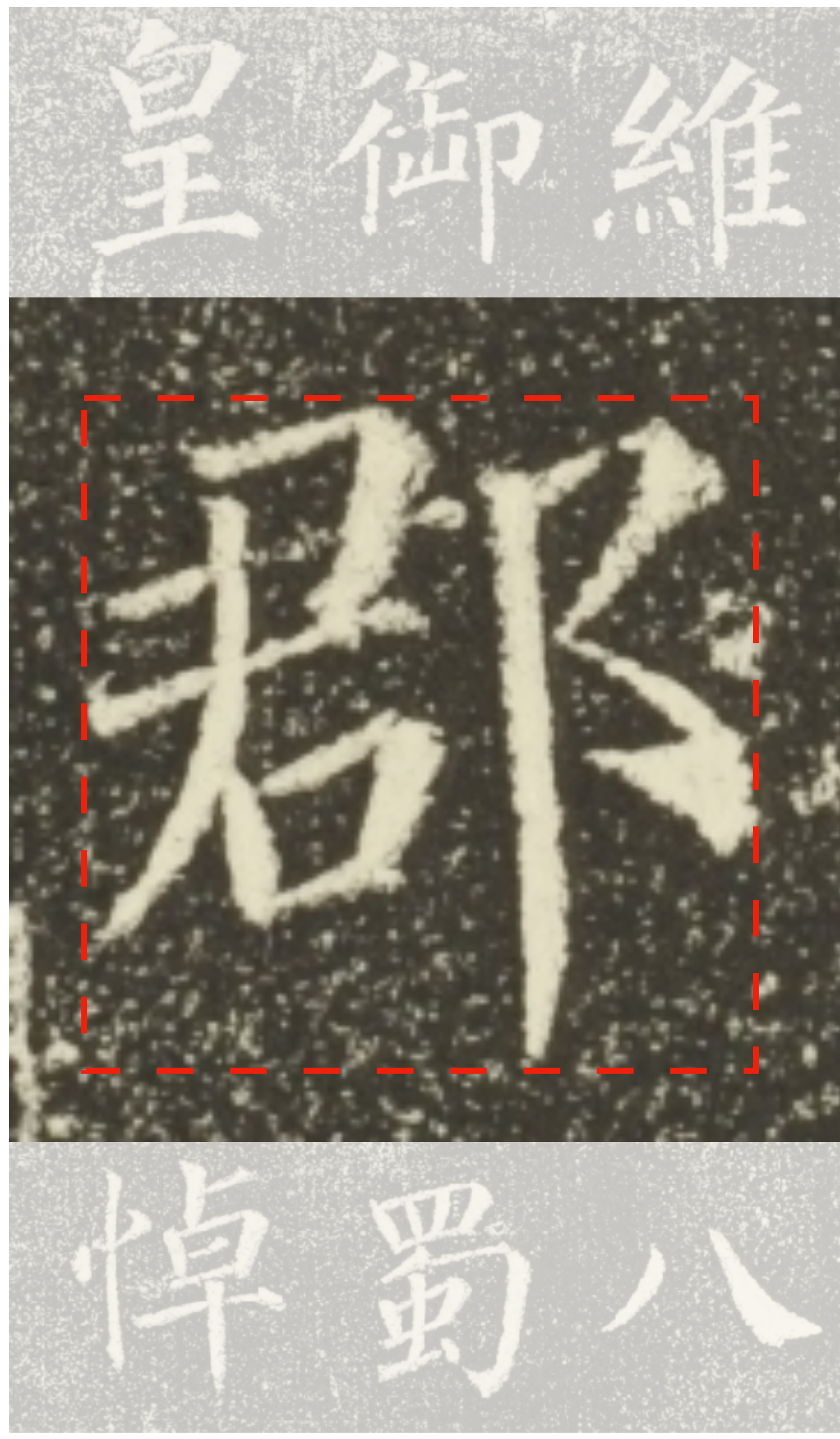
褚遂良《雁塔聖教序》永徽4年（653）

72歳



顔真卿《顔氏家廟碑》建中元年（780）

44歳



正方形にピッタリおさまる字形

顔真卿《郭虚己墓誌銘》天宝8年（749）



褚遂良《雁塔聖教序》永徽4年（653）

72歳



顏真卿《顏氏家廟碑》建中元年（780）

44歳



顏真卿《郭虛己墓誌銘》天寶8年（749）



褚遂良《雁塔聖教序》永徽4年（653）

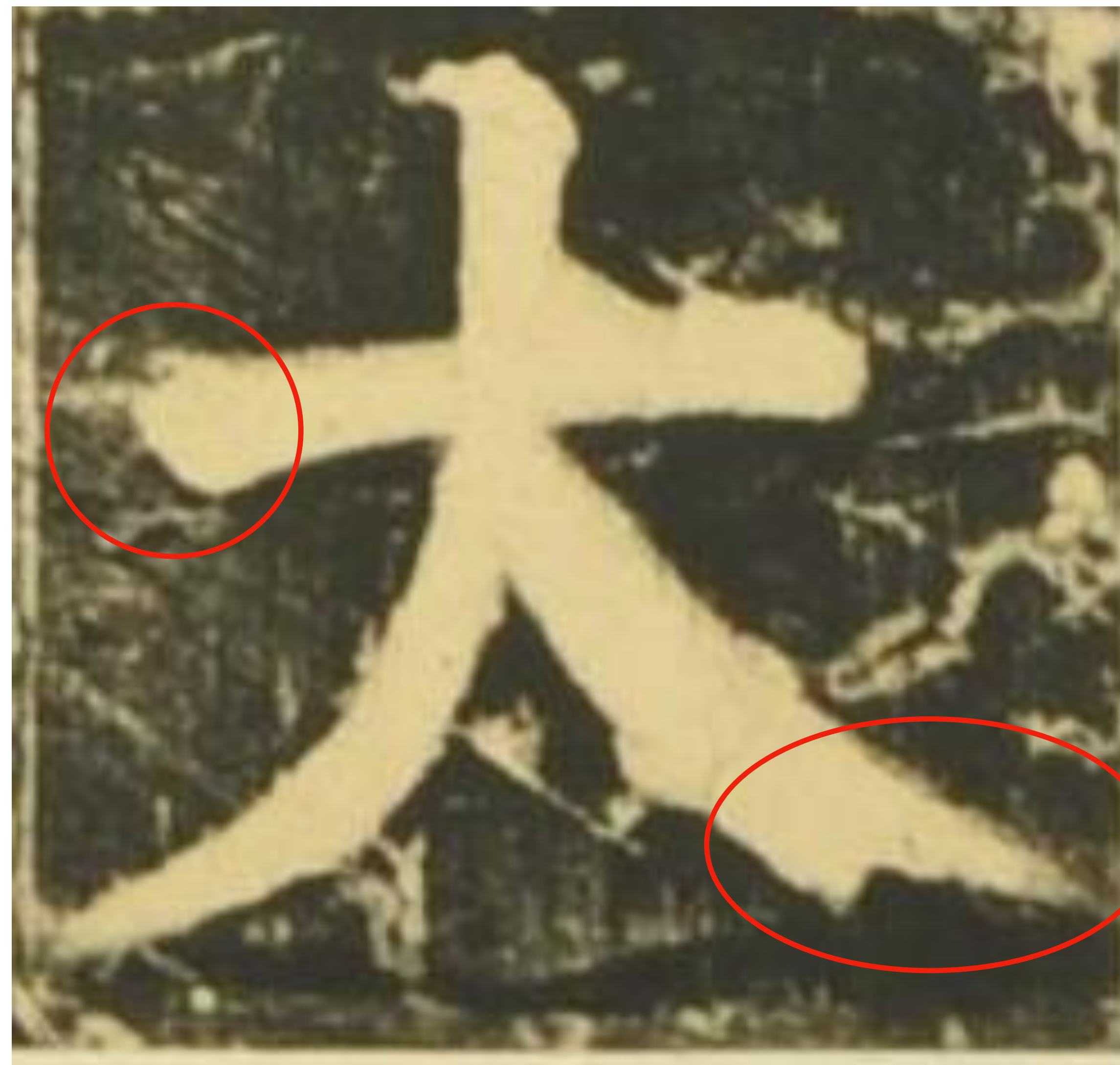
筆先を引つ掛けるような起筆

起筆

「蚕頭燕尾」

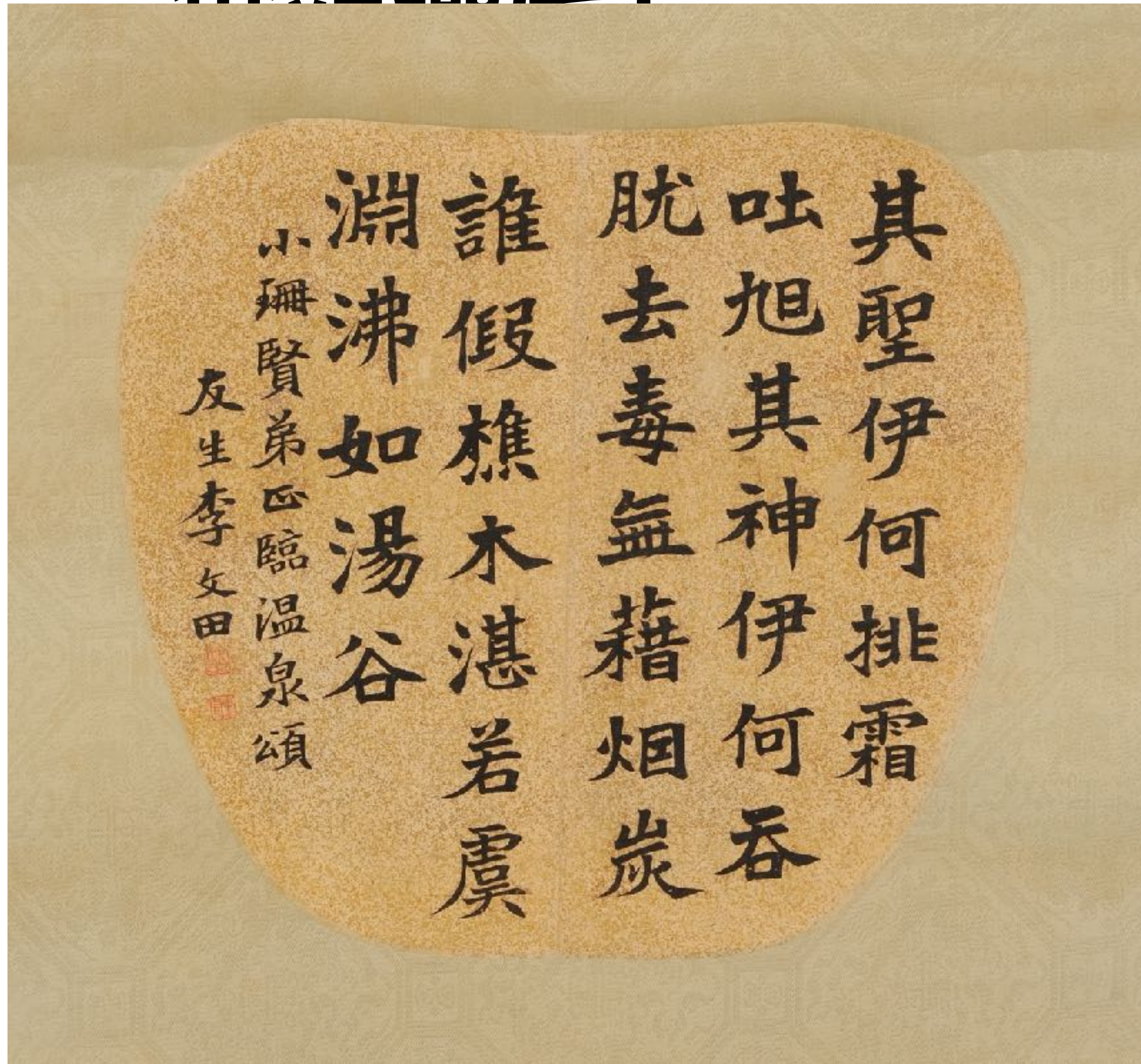
顔真卿の線を形容する語

- ・ 起筆が蚕の頭のように丸く、払いが燕の尾のような形になる。
- ・ 北宋（960～1127）の秦再思（生卒年不詳）『洛中紀異』が初出か。
- ・ 「少なくとも北宋では、顔真卿の書の特徴の一つを「蚕頭燕尾」とする評価は存在してはいたけれども、それは俗説とされる考えもあり、顔真卿の書の独特の特徴として積極的に評価されてはいないということになるであろう。」
- ・ 宮崎洋一「明清時代の「顔真卿」」『書学書道史研究』第27号、2017年

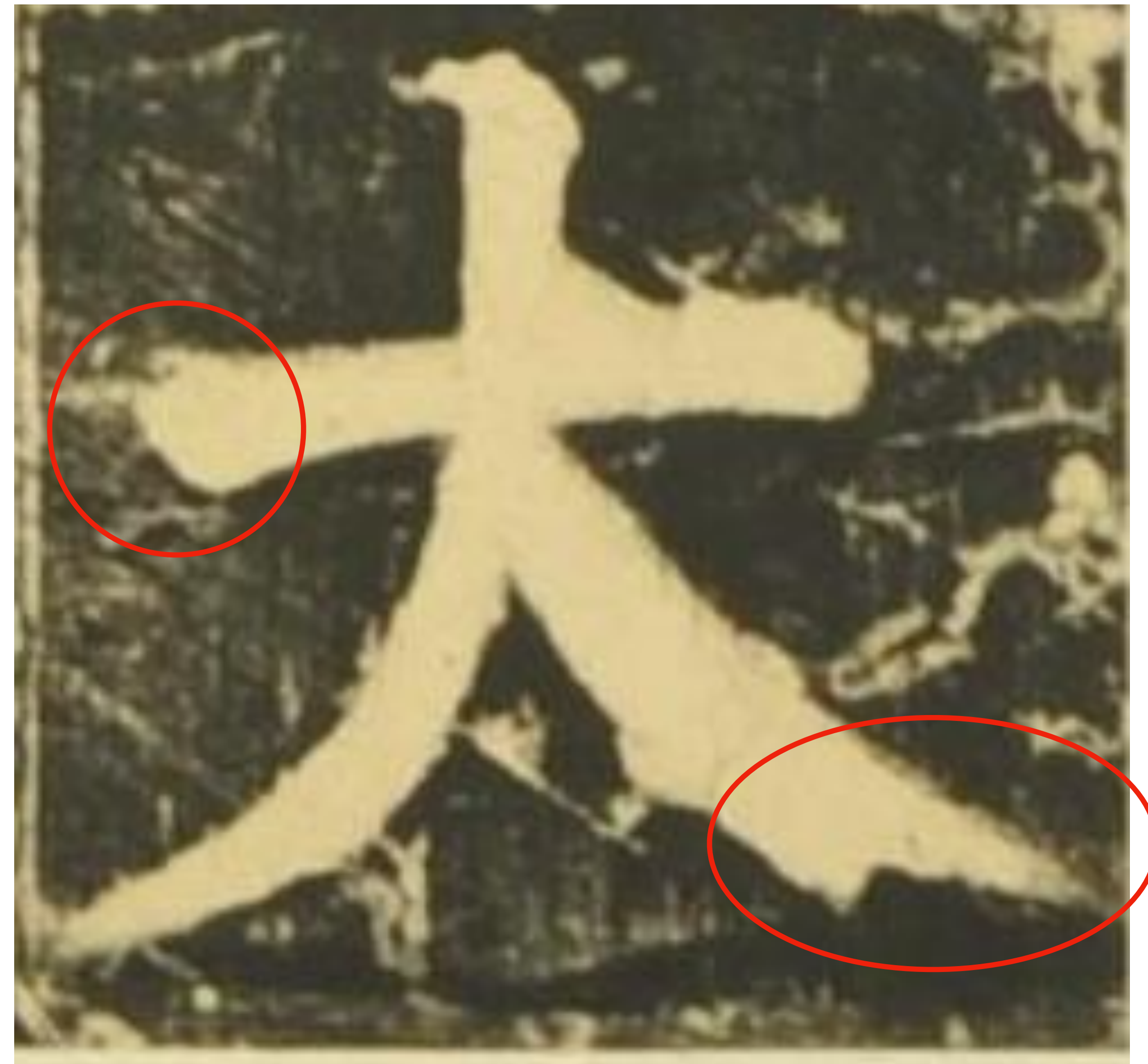


顔真卿《顔氏家廟碑》建中元年（780）

「奉詔燕屋」



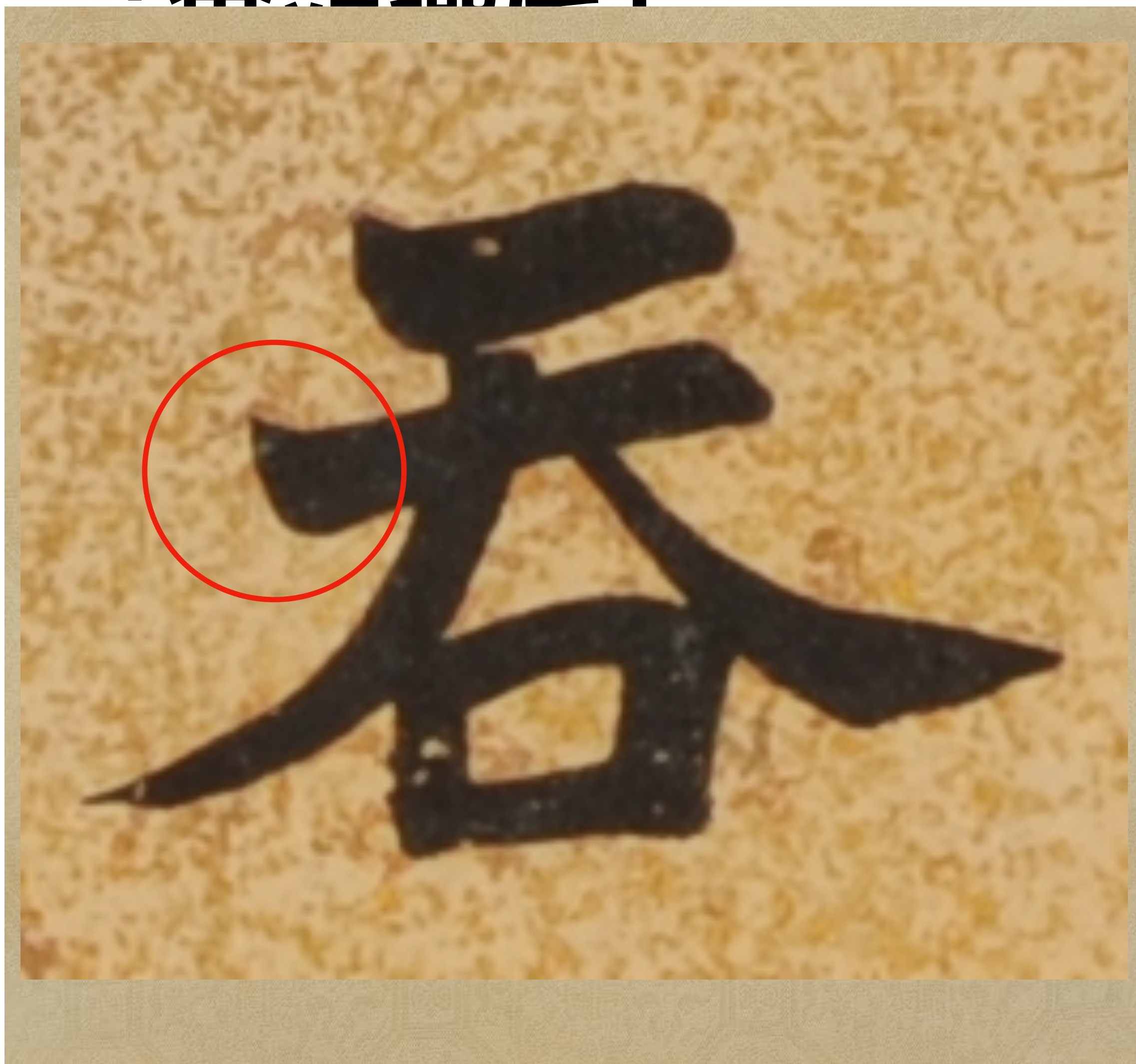
李文田《楷書臨溫泉頌團扇》紙本墨書 21.9×24.0cm 清時代後期 觀峰館藏



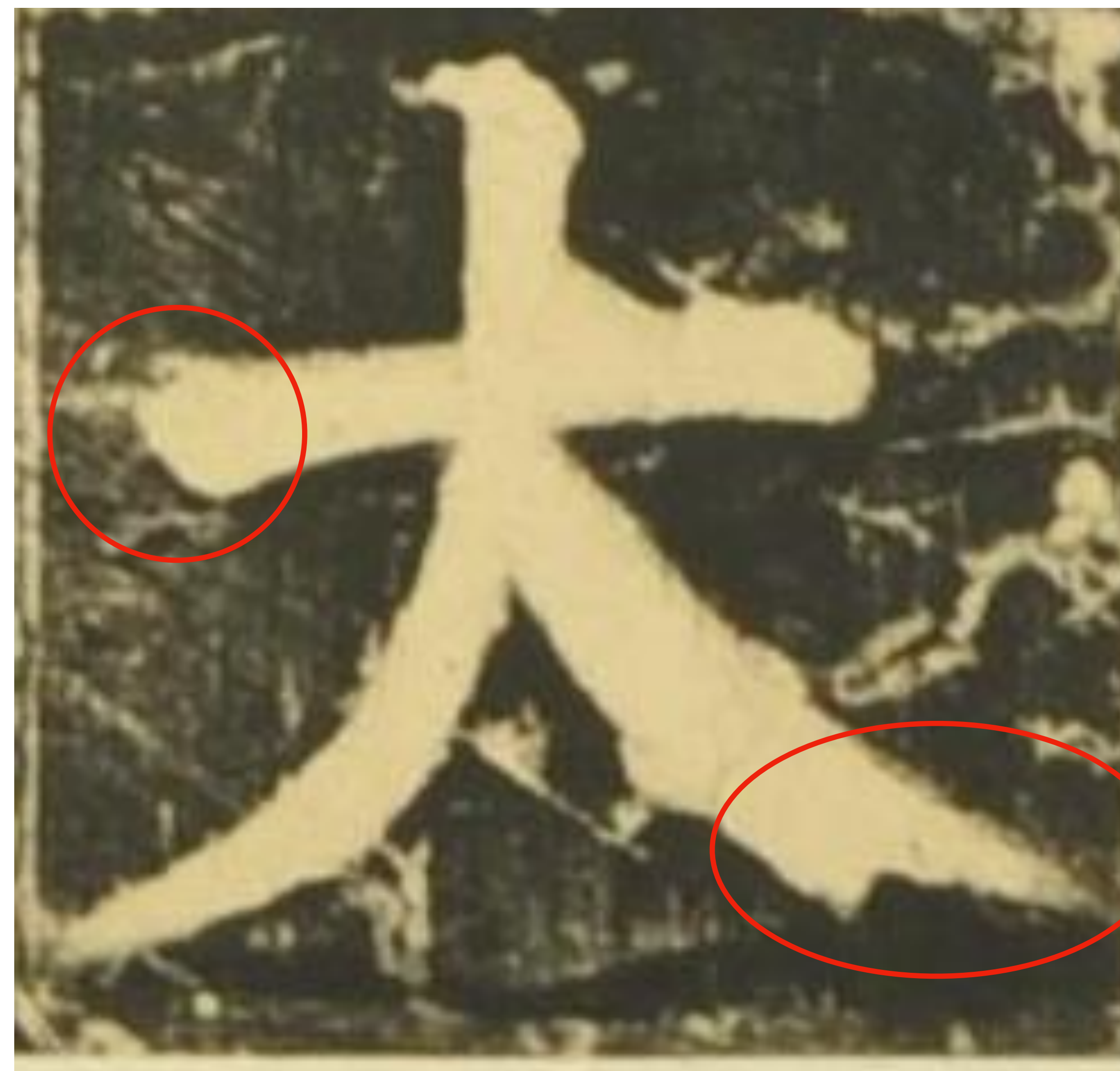
顏真卿《顏氏家廟碑》建中元年（780）

「溫泉頌」は北魏（386～534）の石碑。「**露鋒（ろほう）**」による臨書。

「奉昭燕屋」



李文田《楷書臨温泉頌團扇》紙本墨書 21.9×24.0cm 清時代後期 觀峰館藏

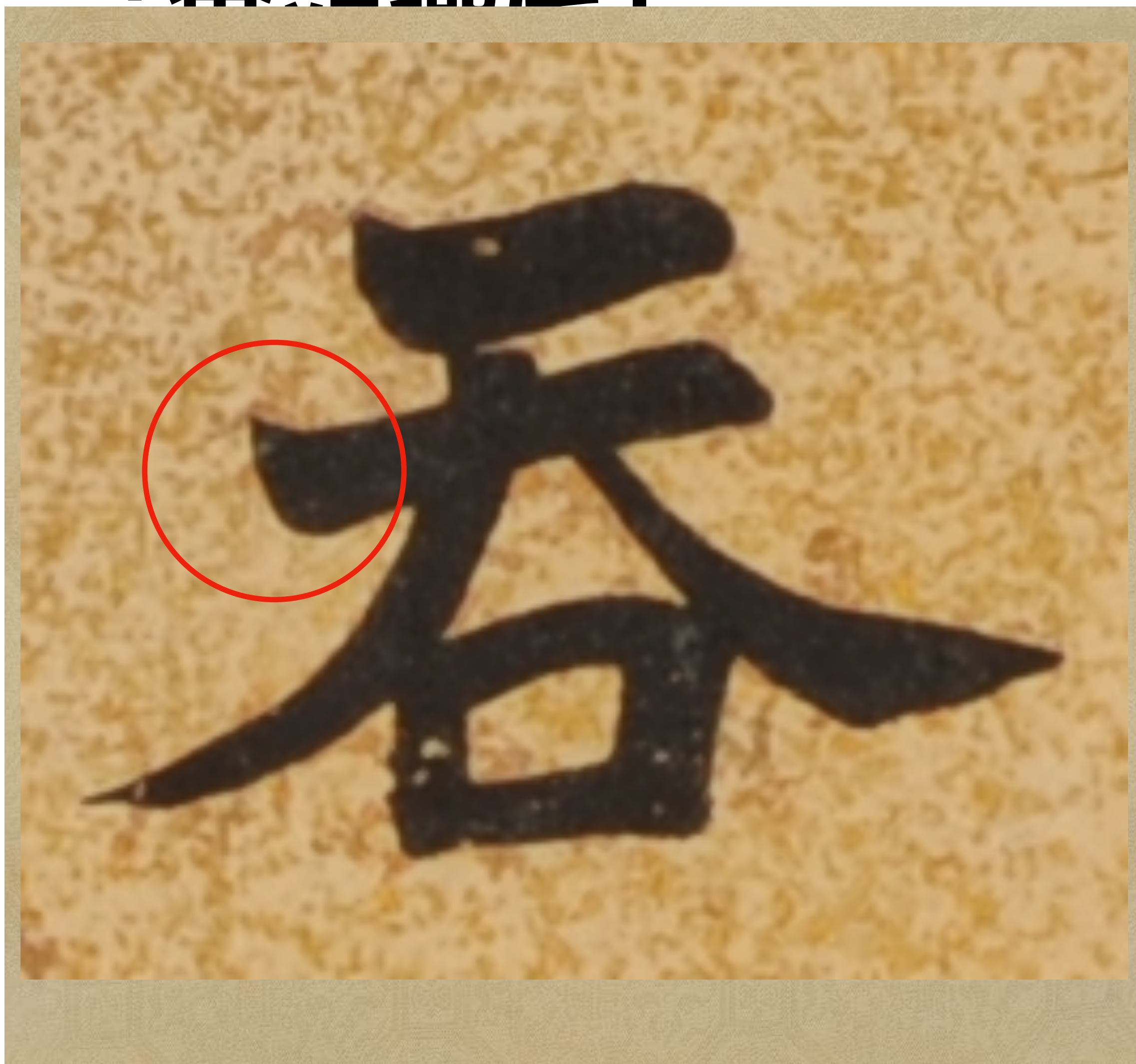


顏真卿《顏氏家廟碑》建中元年（780）

「温泉頌」は北魏（386～534）の石碑。「露鋒（ろほう）」による臨書。

「蚕頭燕尾」

筆をどう動かすと「蚕頭」になるのか？



李文田《楷書臨温泉頌團扇》紙本墨書 21.9×24.0cm 清時代後期 觀峰館藏

「温泉頌」は北魏（386～534）の石碑。「露鋒（ろほう）」による臨書。

通

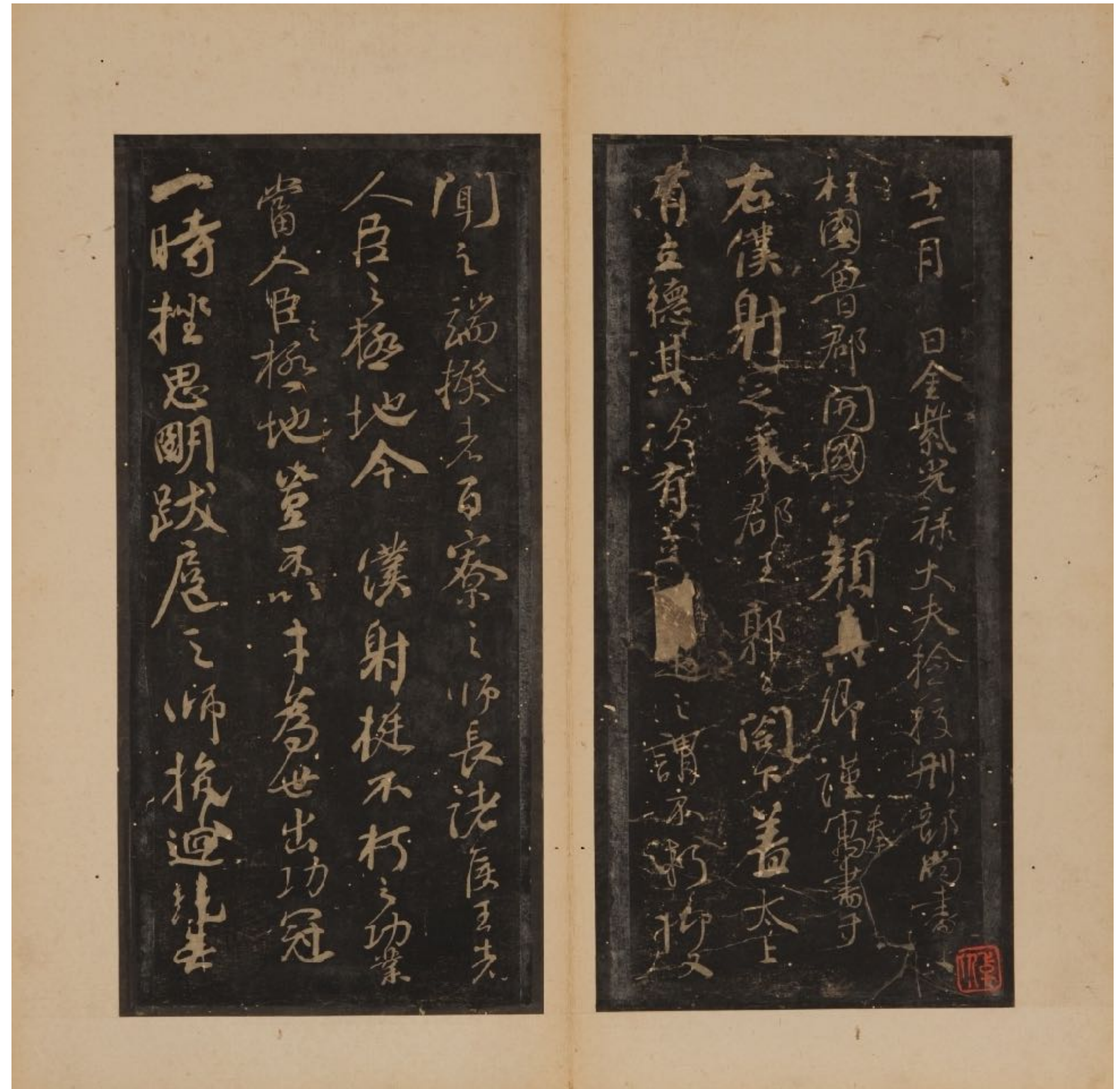


3. 行書作品について —王羲之との比較—

行書作品

顔真卿《争坐位文稿》

- 《祭姪文稿》《祭伯文稿》とともに「三稿」に数えられる。
- 郭英乂（かく えいがい？～766）に送る手紙の草稿。
- 長安・菩提寺における儀式で魚朝恩（722～770）に配慮した郭を批判する内容。

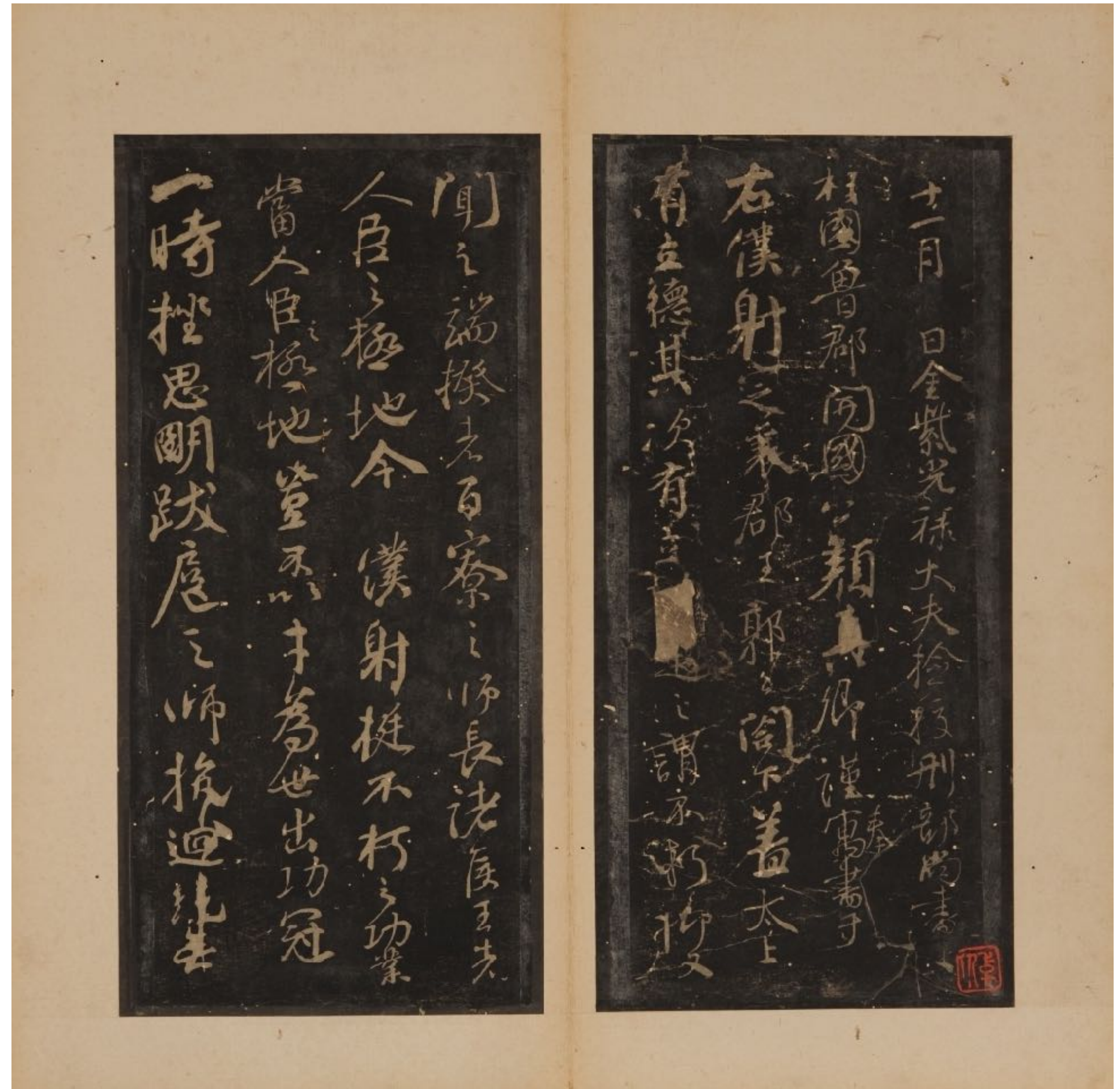


顔真卿《争坐位文稿》紙本墨拓 40.8×20.5cm 原本：唐時代 広徳2年（764） 観峰館蔵

行書作品

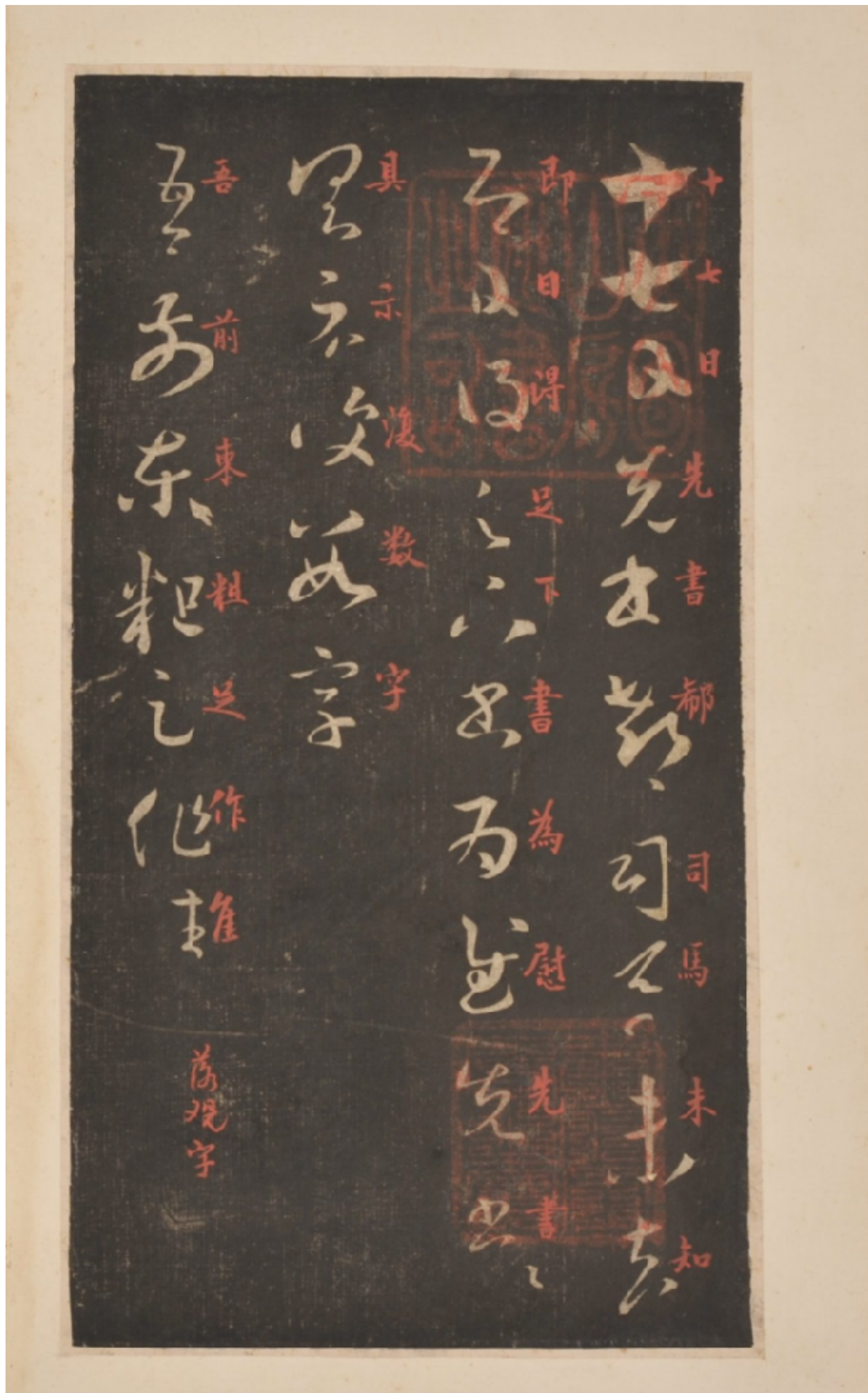
顔真卿 《争坐位文稿》

- ・ 線の肥瘦が強烈に表れている。
- ・ 筆圧の強弱？
- ・ 墨を継いだ部分が太く、書くにつれて墨が減ってくると細くなっている？
- ・ 顔真卿の憤りが感じられるような書風。



顔真卿 《争坐位文稿》 紙本墨拓 40.8×20.5cm 原本：唐時代 広徳2年（764） 観峰館蔵

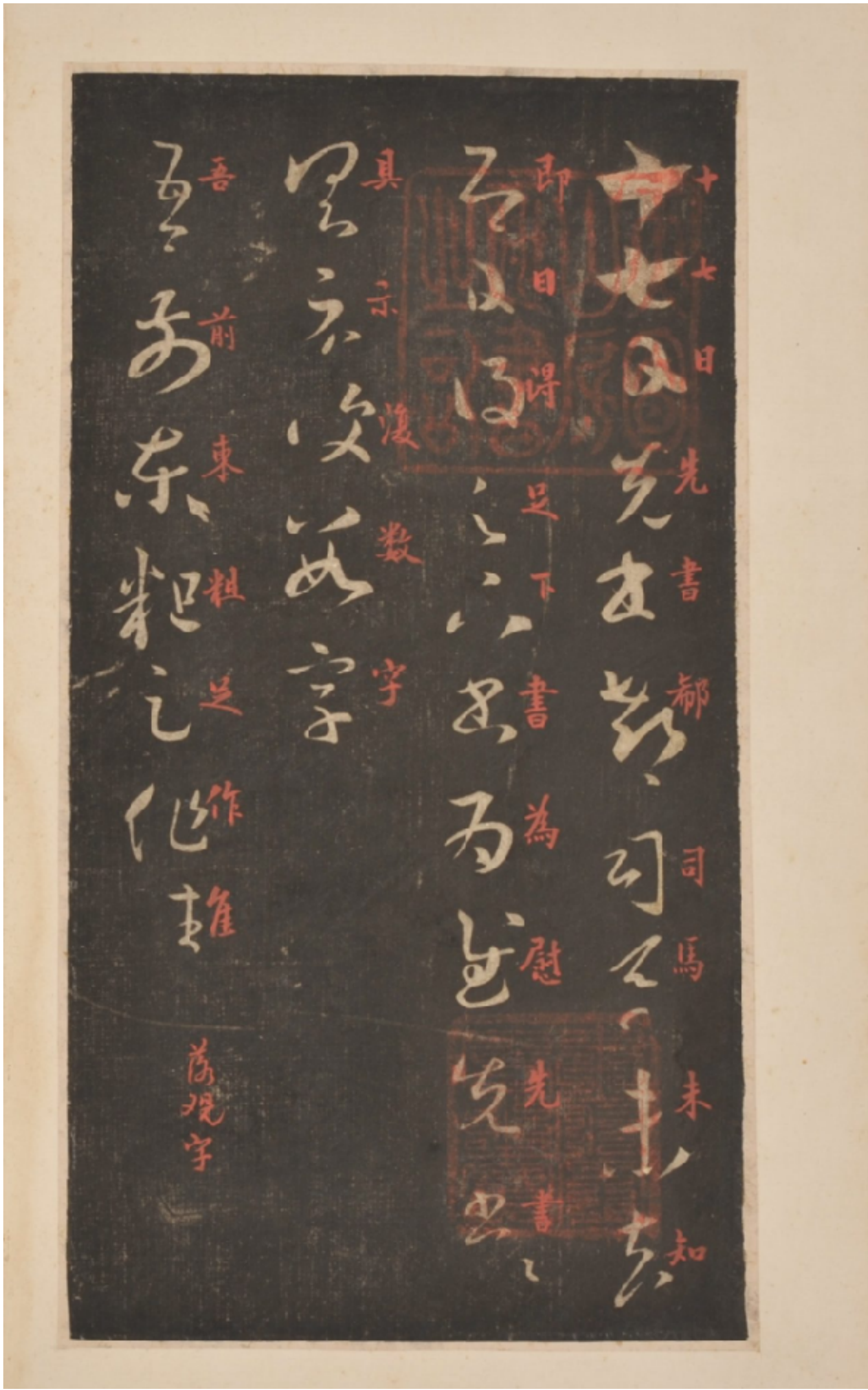
- 王羲之（303？～361？）が草書で書いた手紙を集めた法帖。
- 書き始めに「十七日…」とあることから、この名称になっている。
- 唐時代に、書の手本として選別され、まとめられたもの。



王羲之《十七帖》紙本墨拓 30.4×16.3cm

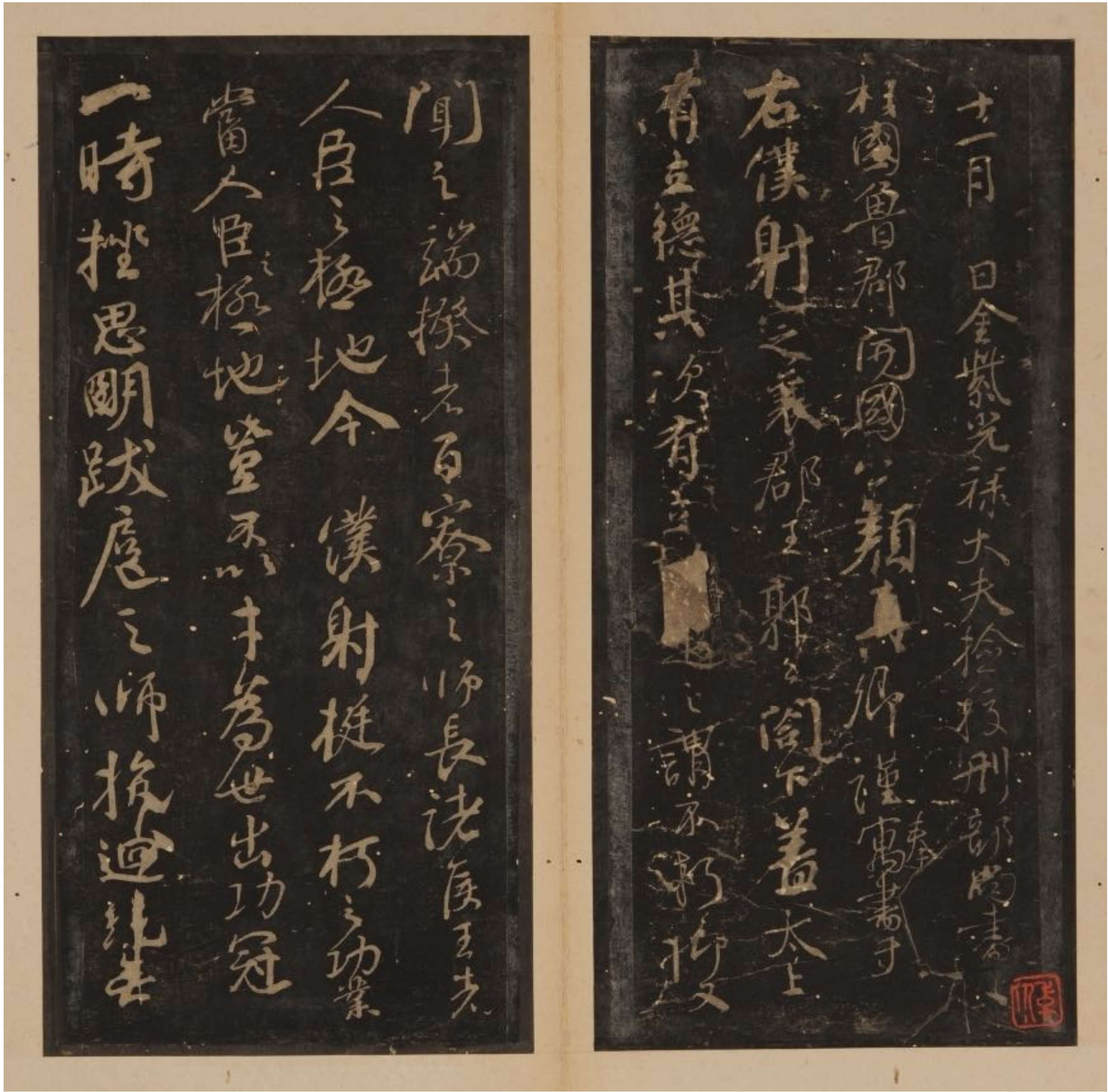
原本：東晋時代 觀峰館藏

字間と行間が広い紙面構成／均整の取れた字形／自然な線の肥瘦
手紙として使用されたもの／筆者以外の人が見ている（完成）



王羲之《十七帖》紙本墨拓 30.4×16.3cm
原本：東晋時代 観峰館蔵

字間が狭い紙面構成／傾く字形／強烈な線の肥瘦
抗議文の原稿／筆者にとつての下書き（未完成）



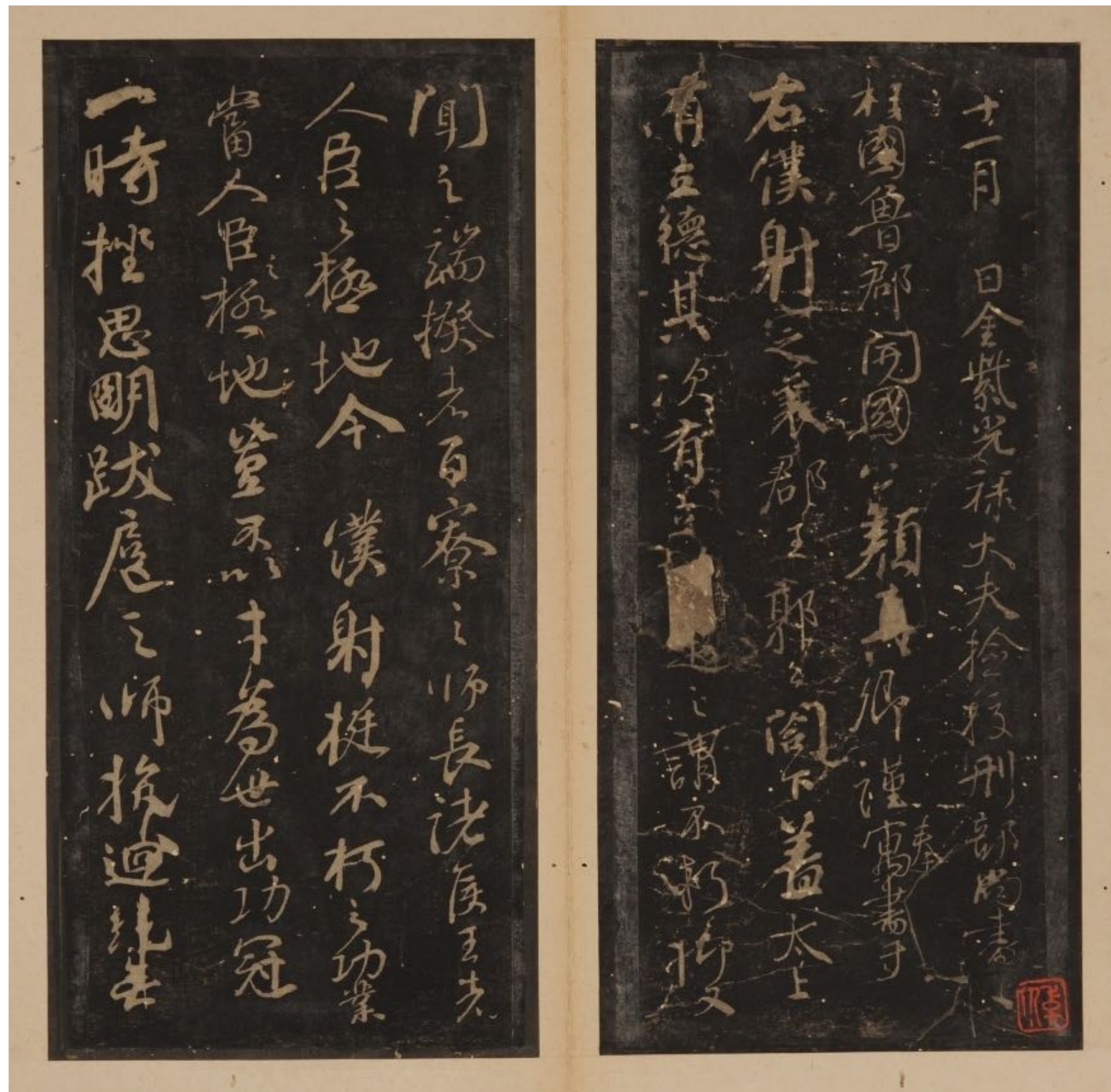
顔真卿《争坐位文稿》紙本墨拓 40.8×20.5cm
原本：唐時代 広徳2年（764） 観峰館蔵

行書作品

顔真卿 《争坐位文稿》

- ・ 顔真卿自身が「完成品」として書き上げた行書ではない。
- ・ 飾らない書きぶりが「まるで顔真卿自身の心境を表しているようである」ため、北宋の人々によって評価された。

字間が狭い紙面構成／傾く字形／強烈な線の肥瘦
抗議文の原稿＝筆者にとっての下書き（未完成）



顔真卿 《争坐位文稿》 紙本墨拓 40.8×20.5cm

原本：唐時代 広徳2年（764） 観峰館蔵

おわりに

講座の内容

1. 顔真卿の人物像と作品について
2. 楷書作品についてー若書きと晩年作の比較ー
3. 行書作品についてー王羲之との比較ー

本日の講座が、顔真卿の書を臨書する時の
ご参考になれば幸いです。



王西京《顔魯公像》紙本墨画
137.9×68.0cm 1987年 観峰館蔵